

## サイエンスブックフェスタの実施

渡部 義弥\*, 西野 藍子\*

### 概要

科学系の同人誌を製作する市民に、科学館で同人誌の紹介、配布を行ってもらいイベント「サイエンスブックフェスタ」をはじめておこなった。本稿では、その着想の経緯と結果について紹介する。結果として、製作者も来館者にも非常に高い満足が得られ、科学館という、科学に関心を持ち楽しみたいという人たちが集まる場がこうしたイベントにフィットしたといえる。

### 1. はじめに

ここ10年ほど、紙の書籍や雑誌の退潮や書店の閉店のニュースがよく聞かれる一方、1990年ごろから自分で本を作って印刷し配布する、同人誌の文化が隆盛するようになった。以前から同人誌を製作する人はいたが、PCによるデジタル編集、デジタル印刷が手軽になることが後押ししたと思われる。

それらの同人誌の相互頒布会の最大のものである「コミックマーケット(通称コミケ)」には、毎年3万グループもの同人誌製作者が参加し、それを見に来る来場者は2日間で50万人にも達している[1]。また、それに次ぐ規模の同人誌頒布イベントのコミティアや文学フリマなども多数あり、商業施設であるハンズ(旧東急ハンズ)も、軒先を貸して同人誌の頒布イベントを行っている。

なお、マーケットに関係なく自分の趣味嗜好で作る同人誌は、そもそもサブカルチャーと親和性が高く、そのメインストリームはアニメ、マンガ、アイドルなどに関するものである。ただ、その中にはごく一部であるが、科学系、工学系の趣味を追求した同人誌を製作している人たちもいる。こうした人たちは上記コミケなどにも参加しており「評論系」といわれるカテゴリーで出展している。同人誌の文化の分母が大きいので、コミケ3万グループの100分の1としても300人の出展者がいるという計算になる。

そこで、こうした同人誌文化と科学館をかけ合わせれば、市民の科学や工学を表現して楽しむ活動と、表現された科学を楽しもうとする科学館来館者が出会い、また科学館の活動の幅が広がると考えた。そして実施



図1. サイエンスブックフェスタの様子。この写真に写っているのは、全体の3分の1程度。



図2. サイエンスブックフェスタの様子。本ではなく、グッズの有償頒布をメインに行うサークルも複数あった。テーブルは当初1台ずつ配当だったが、運び出す場所を考慮し2台ずつとした。

\*大阪市立科学館

したのが科学館での科学系同人誌の「ミニミニコミケ」、サイエンスブックフェスタである。

本稿では、準備の状況、広報、申込み、実施状況、出展参加者のアンケートを紹介する。

市民の科学に関する広い文化活動が自然な形で科学館を媒介して交流され好評であったので今後も実施していきたいと考えるが、最後に注意すべき点もあげる。

## 2. サイエンスブックフェスタの構想

サイエンスブックフェスタの構想は、10年以上前に遡る。そのきっかけは、2010年6月13日の小惑星探査機はやぶさの地球帰還である。

この、はやぶさの地球帰還は、世界初の小惑星サンプルリターンという科学的偉業と、それをなすための数々の困難とその解決がドラマとなり、多くの人の心をつかんだ。大阪市立科学館でも全天周映像作品HAYABUSAを制作、上映したところ、大変な反響をよび、また同年9月17～22日に近鉄百貨店阿倍野店で共催実施した「おかえり」はやぶさ」帰還カプセル特別公開」には、5日間に5万人もの来場があるなど、大変なブームとなった。

このとき、はやぶさ探査機について、イラストやストーリーを現した同人誌製作や動画、コスチュームプレイやグッズ製作などをする人たちが現れ、勝手連的に協力の申し出があった。

このときは、急遽行った企画展で、業務が輻輳していたために、ほとんどは申し出を断らざるを得なかったが、オリジナル豆絞りの製作販売などを行うことができた。

そして、そのさいに、科学技術やその成果を文化として楽しむために、まじめに同人誌やグッズなどの製作をしている人がそれなりにいることがわかった。

また宇宙機や航空機やその周辺を楽しむ同人誌製作者やコレクターの集まり「東京とびもの学会の年次大会」のように、そうした人たちの集まる取り組みが行われていることや、その関係者とのつながりができた。そして、いつかはそうした企画を実現しようと考えていた。

そして、2024年に科学館は全面リニューアルをした。このさい、科学館という場での人と人との交流をもっと重視しようということを含むコンセプト「他にない、みんなで科学を楽しむ快適空間の構築」[3]を提示した。この機会をとらえ、この新しいコンセプトを具現するものということで、本企画を2024年の事業案としてあげることにした。

## 3. サイエンスブックフェスタの概要

さて、今回実施した「サイエンスブックフェスタ」の概要は次の通りである。

### 内容

サイエンスやテクノロジーを楽しむ自作・自社出版の本やグッズについて、その製作者(出展者)やコレクターがブースをかまえ、参加者に展示・紹介・頒布を行うイベントです。このイベントによって製作者相互や科学館来場者の交流を行われ、科学文化を育みます。

日時: 2025 年 1 月

25 日(土) 13 時～16 時 30 分

26 日(日) 10 時～15 時 30 分

(12～13 時は閉場・休憩)

場所: 大阪市立科学館研修室(およそ 130 m<sup>2</sup>)

方法: 出展者が各テーブルでブースをかまえ、ブースにて製作物の展示、紹介。頒布を行う。ブースの仕様は次のとおり。

1) 個人・サークル(任意団体)が

1 テーブル(180cm×45cm)とイス 3 脚。

2) 企業・法人は

2 テーブル(180cm×90cm)とイス 3 脚。

什器は研修室の備品を貸し出す。

参加資格:

出展者: 18 歳以上の成人を代表とする個人・サークルおよび出版社等で大阪市立科学館が扱う分野及び近接分野の本やグッズの製作者や関係資料類のコレクター等。

出展料: 個人・サークルが 1 日 3000 円、企業・法人は 1 日 1 万円とし、事前振り込み制とした。

内容については、本だけではなくグッズも対象とした。グッズの例としては、例えば、サイエンスに関するカードゲームや、文具、玩具、雑貨なども科学を楽しむという趣旨には沿ったものであり、また上記コミックマーケットでも本だけではなく、様々なものの頒布が行われているためである。

また、販売「も」行えるという建て付けにした。交流が目的なので、コレクションの展示や解説も当然考えられるという観点からである。実際は、コレクションのみの出展はなかったが、同人誌等の頒布にあわせてミニ実験デモや、実物のロケットパーツを持ち込み、展示した出展者もあった。

日時で、初日と 2 日目でスタート、終了の時刻を変えたのは、遠方から来られる出展者を想定し、土曜の午前の出展は難しかろうというのと、日曜の夕方は余裕を持って帰っていただこうという趣旨であった。実際は日曜の朝から出展される方があり、日曜日はその分少し慌ただしくなった。

なお、科学館で実施するにあたり、科学館の意に反するようなオカルトや科学館の権威を借りるような内容を防ぐように、以下の通り、出展要項の「備考」を設定した。

出展物については、大阪市立科学館で内容を確認し、大阪市立科学館のテーマに沿わないもの、教育施設内で展示・頒布するにあたり公序良俗に反するもの、火気や爆発物、劇毒物など危険が予見されるものについては、当該出展物は出展不可とします。

実際問題として、これに反するあるいは少しでも抵触するような出展はなかった。

また、要項には示さなかったが「コスプレは完全には不可ですか？ 白衣もダメといわれるケースもあるので」という質問が事前にあった。公序良俗に反するのではありませんが、現場で問題があれば注意するというスタイルをとったが、これも問題は発生しなかった。

なお、出展者は、個人・サークルが17、企業・法人が1で、1日だけ出展者もあった。会場レイアウトは、図3のとおりである。

#### 4. サイエンスブックフェスタの実施の様子

サイエンスブックフェスタの実施日直前に、企画者の渡部が感染症のためドクターストップがかかり外出禁止となったため、実施は西野が全面的にしきって行った。

会場のレイアウトについては、下記の通りである。12～14程度のブースなので、1出展あたり、通路スペースなどいれて10㎡弱。そこに1㎡程度の机といすを入れるプランであった。部屋の中央は仕切りをいれ、バックボードの替わりとした。ただし、バックボードがないブースもできてしまうので、希望性とした。

展示の準備は、出展物は事前の宅配便の送付を可とし、日時指定をお願いした。また、車で搬入も一部可とし、駐車場使用は行事の出展者ということで無料減免とした。駐車場使用は2程度であった。ほとんどの出展者は宅急便またはキャリーバッグでの手運びをしていた。あとのアンケートで判明したが、他のイベントでは宅急便での送りつけというのは基本受け付けておらず、慣れた方はキャリーバッグで持ち込んでいた。

また、昼食や休憩、家族連れでの出展者のために、会場の隣にある、応接室（現第1会議室）を控え室および荷物置き場として用意した。

さらに、出展者の特典として、科学館の展示場の見学をイベント当日は無料とした。これは少しでも科学館の様子を知ってもらい、出展説明の参考にもしてもらうためである。

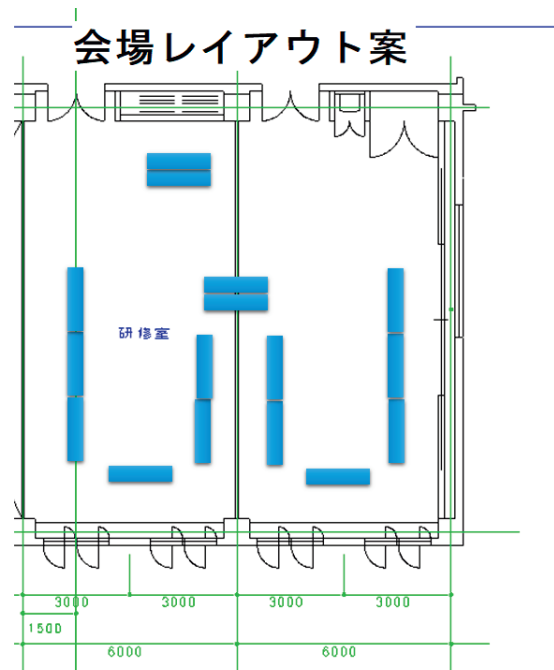


図3. 会場レイアウト案（当初）。一般11、大型2の予定だった。最終的にはテーブルは2倍数を配当した。

会場正面には、看板を用意した。ただ、会場がやや奥まわっていて目立ちにくく、随時担当が呼び込みを行った。一方、プラネタリウムの退場導線に近いことから相当な方が関心をもって入っていただけた。

また、2日目に設定した閉場・休憩時間には、張り紙をするようにした。閉場・休憩がある会は珍しく、来場者の中には驚いた方もいたようだが納得いただけた。

実施の状況は図1、図2にも示したが、図4、図5も参照されたい。当方が用意したのは、テーブルとイスであり、一部は壁面を使うこと、サークルによっては水道を一部使用することを許可した。またあまり多くはなかったが電源の使用も許可している。

その他の布や装飾は出展者が用意してきたもので、かなりなれている出展者も多かったこともわかる。一方で、出展ははじめてというところも複数あった。

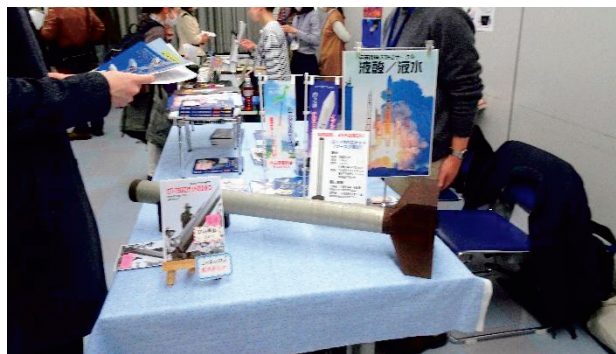


図4. 出展ブースの様子 ロケットの実物を展示したサークルもあった。事前に持ち込みについて相談があり、確認のうえ展示していただいた。



図5. 出展ブースの様子。多くのグッズを持ち込み、看板も設置していた。プロの科学漫画家による出展。商業出版物、出版社の出展も可としたが、出版社の出展はなかった。一社からはお断りの連絡があった。

## 5. 事前広報・広報

### 5-1 出展者向けの事前広報

サイエンスブックフェスタは、前例のない取り組みであり、一番危惧したのは、出展者が少ないことであった。出展者が少ないと、出展者と来館者の交流が限られ魅力が薄れ、事業の効果がでないと考えた。

そこで、出展者の公募前に、出展しそうな人へコネクション作りを行った。まずは、本事業のモデルとなった「東京とびもの学会」主催者諸氏への働きかけである。東京とびもの学会からは1サークルが参加してくれた。次に、8月に行われるコミックマーケットに参加する知人を通じて、日程などの調整前に、簡易的なチラシを作成し(図6)、出展者向けの事前広報を行った。その結果、4サークルが反応し、そのうちの3サークルが出展してくださった。また、その中にはチラシのデザインなど広報に力を貸すという申し出があった。一般参加向けのチラシやロゴマーク(図7)は、出展したよろぴあんサークルの Ayane さんによるものである。

### 5-2 広報

広報は、独自チラシと科学館WEBおよび、SNSのX(旧Twitter)により行った。

特にXについては、「科学の薄い本(同人誌の俗表現)」の頒布イベントを、科学館で行い、初めての企画なので広く伝えてほしいと表明したところ、1500 リポスト、900 イイネ。17 万ビューという多数の反響があった。この投稿がきっかけになり、出展希望者が現れ、ほぼ定数の出展を得ることができ、また来館者としてイベントの参加を予定する方が増えた。

同人誌文化はサブカルであると述べたが、初期よりインターネットや SNS との親和性が高く、それがマッチしたもののといえる。

## 6. 出展者

出展者は、大型(プロ)枠が1、一般(アマチュア)枠が11または12であった。出展種別では、宇宙開発1、化学2、生命科学3、天文4、技術・科学全般3であった。ただし、生命科学がメインでも結晶標本を頒布したりと、ひとつのサークルで様々なクロスオーバーをしているのが目立った。

出展者は、近畿はもとより、関東地方から中部、九州にいたる広域であった。広い範囲の出展者が大阪に集まっての交流が実現した。

また、科学館の本を紹介するコーナーも設置した。ここでは販売は行わず、無料の冊子の頒布と、販売は1階のミュージアムショップへ誘導するという方法をとった。ちなみにイベント会場は地下1階で、目の前のエスカレータをあがって左がミュージアムショップである。

**2025年冬初実施**  
**科学本等製作物展示・頒布**  
**大阪市立科学館**  
**サイエンスブックフェスタ(仮)のお誘い**

みなさんこんにちは。大阪市立科学館です。私たちは「科学を楽しむ文化の振興」をミッションに、大型プラネタリウム、宇宙・物理・化学・気象・科学史等を主内容とする展示場を公開し、またアマチュア愛好家や、大学や研究機関、企業など様々な人や団体と協力しながら、各種のワークショップや講演会等、科学普及のイベントを実施し、調査研究や出版も行います。利用者は年間70万人。大人子供は半々です。

この大阪市立科学館で、2025年1月～2月の土日祝日の1～2日間、サイエンス本の作り手が製作物を持ち寄り、製作物を通じての作り手や来館者と交流し、販売もできるイベントを企画しています。アマ、プロ問わず、参加いただき、本だけでなく、ポスターや模型やグッズなどより広い製作物も対象にし、販売なしでの展示も考えています。詳細を検討中です。会場は、無料で出入りできる部屋で行います。公立のミュージアムで行いますので、一定の節度はお願いし、制限もありますが、初めての企画なので、小さく産んでみなさんと一緒に育てていこうと考えています。

ぜひ、参加をご検討ください。情報をお送りする宛先をお知らせください

〒530-0005 大阪府北区中之島4-2-1 大阪市立科学館  
 担当：学芸課 渡部義弥(学芸員 天文学)  
<https://www.sci-museum.jp/> 電話：06-6444-5184(学芸課直通)

図6. 事前告知チラシ。コピーで50枚ほどを製作し、夏に行われたコミックマーケット出展者のブースで配布をしていただいた。



図7. Ayane さんによるサイエンスブックフェスタのロゴデザイン。広報に活用させていただいた。また、チラシのデザインもボランティアでしていただいたなど、広報に全面的に協力いただいた。

## 7. 参加者

参加者は1日目 305 名、2 日目は 373 名であった。定員が 80～120 名程度の研修室で実施する行事としては非常に多くの方に参加いただけたといえる。

要因としては、広報の成果もあるが、プラネタリウムから出てくる来館者の動線正面であり、流れ込みがあったこと。なにより科学館スタッフが随時呼び込みをしていたことがあげられる。

研修室の二つある扉のうち、右側を主入り口としたが、左側から入った方も多かったようである。次回実施するときは、これを意識した動線管理、レイアウトをするによりよいと考える。

なお、参加者のアンケートをとれなかったが、現場では「楽しかった」という声が多く聞かれた。化学実験や生命科学実験など、頒布する同人誌に関係したデモンストレーションをしたブースもあり、特に子供に人気だったようである。

結果同人誌を購入する中高生～成人世代だけでなく、子供たちにとってもおもしろいイベントとなった。これは、事前に視察した技術書典や、コミックマーケットでは見られない様子で、科学館ならではの展開ができたと考える。出展者のおかげであるが、そうした出展をうながすような募集の書き方や事例の紹介があるとよいであろう。

その他、SNS にあがっている声をいくつかピックアップする。

- ・楽しい交流会だったので続編・他の科学館でも広げてほしいです！
- ・次回はサークルで出たい！

- ・ガチのビーカーが中古とはいえ、300 円だったので思わず買ってしまった。関西でこのようなイベントが開催されるのが本当に嬉しかったです！
- ・理系のマンガはウェブでも読んでたけど、紙を手にとるとその量にびっくりします。
- ・まったくわからないというジャンルも無く、幸せ空間でした。
- ・欲しかった本と予想外に面白い本たくさんで心が満たされます
- ・サインとイラストも目の前で描いていただけてうれしかったです！
- ・次は出展してみたいなあ 電源借りられるならレーザーの実機持ち込んで実演したい
- ・覗き見だけのつもりだったけど結局色々購入。
- ・科学館の開催って面白いですね、オンリーイベントのようけどもっと雰囲気がライトで楽しいです！
- ・フラッと立ち寄っただけでしたが、沢山の方とお話できました。
- ・うえたに夫婦さんと色々話せて嬉しかったです！
- ・X で買えたらいいなあ…と眺めていた本、グッズが購入できたー！
- ・普段お会いできない方と宇宙開発の話ができてすごく楽しい場所でした
- ・大阪市立科学館でビーカーくん(注)描いて頂きました！普段目にしているキャラクターたちを目の前で描いていただけて感動。娘が最高にテンション上がってる
- 注:ビーカーくんは雑誌「子供の科学」の連載で登場するキャラで、作者のうえたに夫婦が出展した。
- ・楽しかった…知識とは…ってめっちゃ考えたわ。知らない事に接する喜びみたいなのを、普段とは違う環境で感じる事ができてなんかいろいろと楽しかった。

以上の感想を分析すると、次の通りである。

本イベントは、本や自作グッズを「作者自ら」販売することによって、それらのモノを媒介にした会話、交流が起こることを目的としていたが、感想からはそれは達成できたといえる。

もちろん「お話ブース」や「ポスターセッション」でお話・交流することもできるが、購入でき、情報容量が大きな「本」が媒介する効果がでていて、狙いがはまったといえる。

また「自分も次回は出展したい」という意見がかなり目立っている。今回は関東～九州まで、全国からの出展があり、それら出展者は他のイベントの経験もある方が多かったが、次回行う場合大阪近郊の経験があまりない出展者も目立つことが考えられる。それらを考慮した内容としたい。

## 8. 出展者の感想

出展者に対しては、事後にオンラインでアンケートをとった。ほとんどの出展者から回答があった。その結果は次の通りである。

最初、何で事業を知りましたか？  
15 件の回答



イベントの規模はいかがでしたか？  
16 件の回答



8-1 質問：イベントの開始終了時間について、何時から何時までがよいなどご意見をお聞かせください。できれば理由も への回答

- ・今のままで良いと思います。遠方からの参加だったので、13 時からの枠があるのはとても助かりました。
- ・良い時間だと思いました。出展時間が長くなって良かったです。
- ・最終日は閉館時間まで出来ればと思います。終わりのほうが人は多かったように思います。また、プラネタリウムの隣にあるからか、毎時開始時間の少し前に時間調整で来られる方も多いうように思いました。ですのでせめて 15:30 から 16:00 にすると最後の人波と会える様に思います。
- ・2 日目だけ参加のサークルが 30 分で設営しないといけなくなっているの、2 日目の開始時間を 30 分遅くするのがいいと思います！
- ・今回ののは適切な時間だったかと思います。
- ・10 時から 15 時 30 分 (出展者退出 16 時 30 分締め) でもいいかも。出展者が科学館を覗ける時間・交流できる時間が欲しい。
- ・金沢から参加しましたが 1 日目も 2 日目も丁度前乗りや後泊の必要のない丁度良い時間でした。また、来場者も時間帯によって変化があったため 1 日目と 2 日目の時間が違うことがとても良かったと感じました。
- ・準備時間が大規模なイベントは 2 時間あるそうです。準備時間をいただくと出展者同士の交流や科学館さんとの顔合わせもイベント開始時刻前にすることができ、より助け合いやすくなるかと思います。

- ・科学館の運営時間を気にしなければ、せっかくのイベントなので二日とも 10:00～16:00 ぐらい (長め) がいいかなと思いますが遠方からの参加者もいるので難しいですね。
- ・日曜日の開始時間は少し早いなと思いましたが、全体の開催時間はこれくらいがいいと思いました。ただ体感あつという間でした！
- ・この時間帯で良いです。
- ・10:30～16:30 2 日目に準備時間が足りないサークルさんもあったため。開始時間は 10:30 以降が適当かと。
- ・初日はもう少し早めの開始 (10 時半とか 11 時) でも大丈夫そうだなと思いました。(ちなみにコミケは回によりますが 10 時～10 時半開始です)
- ・良くあるのが 10～16 時 (休憩時間なども無し) ですので、それくらいでも良かったかも知れません。

8-2. 質問：イベントの時期はいつ頃がよいですか、複数あげてもらってよいのでご意見をお聞かせください 12 件の回答

- ・コミケの時期を避ければ特段問題ないと思います。
- ・いつがいいとかは特にないです
- ・可能な限り多く、理想を言えば季節毎、そうでなければ今回のようにコミケ前後を中心として年 2 回が良いかと思います。また、当日はお子様が多かったので、長期休みに合わせるのも良いと思います。
- ・自由研究に使っていただけるように、夏休み前も良いかもしれません。
- ・1 月下旬～2 月、6 月、9 月など。他の大きな即売会イベントと被らないスケジュールだと助かる。
- ・台風などの天候が悪くなりがちな夏を避けていただけると交通機関の遅延など考えなくていいのでありがたいです。
- ・今回の時期は学位論文提出の時期にあたるため、学生が出展するにも見にくる場合にも春がよろしかと存じます。
- ・春休みくらいがベストですが、そこまで強い要望ではありません。

8-3. 質問：ちょっとしたことでもよかったと思われることをお知らせください 16 件の回答

- ・スタッフさんの対応がとても丁寧で、スペースも広く色々な展示方法を考えることができるので良かったともいます。
- ・駐車場を用意してもらえた
- ・科学館の展示を見て回れた
- ・想像よりもお客さんが多くて売上也多かった

- ・休憩所を用意してもらえたのでお昼休憩をしっかりと取れた
- ・スタッフさんが優しくった・
- スタッフさんが入り口の前でこっちでこんなのしてますーとお客さんに声かけしてくれていた
- ・やはり、コミケとは違い、来場者ほぼ全員が科学への興味というハードルを越えているので、コミケより有意義かつ密度の高い交流が来場者、出展者同士両方で出来ました。やはり、場所、客層、それに合わせた作品の方向性がいかに大事化を学ぶ事が出来て良かったです。
- ・非常に楽しい2日間でしたので、参加できた事自体が本当に良かったと思います。
- ・いろいろなサークルさんや来場者と沢山お話が出来て、温かいなあ…と思いました。
- ・机が大きかった。2人で1つの机を使ったがちょうど良かった
- ・他のイベントと違い昼休みがあったので、久しぶりに会った友人とゆっくりランチに行けた。
- ・科学好きが集まる科学館で開催されるイベントということで、非常に相乗効果があったと思います。科学系サークルとしては大変ありがたい話。
- ・科学館の職員さんが覗きにきてくれていたり、グッズや本の感想をいただけたのがとてもよかったです。スペースも卓も広くて使いやすかった。受付対応してくださった職員さんも親切で、参加者も出展者も楽しめました。郵送で搬入・搬出できるのもとても助かりました。
- ・科学館に来ているということもあり、もともと科学に興味のある方が多く楽しんで展示を見ていただけたことが良かったです。また、プラネタリウム終了後スタッフの方が積極的に会場へ呼び込みをしていらっしやって本当にありがたかったです。
- ・会場への呼び込みを常にくださっていたこと。おそらくプラネタリウムの時間終わりの呼び込みが大変ありがたく感じました。
- ・他分野の方との交流がよかったです。またいつもと違う新しいお客さんにも見てもらえたのでとても良かったです
- ・科学館スタッフの方々が見に来られて購入して頂いたのがとても嬉しかったです！
- ・ジャンルが幅広くて良いと思います。
- ・がっつりサイエンス系ではありませんが、天文宇宙系のグッズ販売系サークルでも参加できたこと。
- ・プラネタリウムから退場される方の動線上にあったこともあり、常に会場に人が来ていたのが良かった。イベントの当日周知にもなったように思います。

・コミケ等の多ジャンル即売会だと「普段は科学に興味ない」「たまたま立ち寄った」人を相手にアプローチをかけるが、今回は元々興味のある層がメインとなり、声掛けの方法や会話の方向性が違ったところが面白かった。そういう経験ができて良かったです。また、会場内みんな科学系のサークルか、という感動もありました。ジャンルをある程度絞ることで、一体感はあったと思います。

#### 8-4. 質問:ちょっとしたことでも不便を感じたことがあればお聞かせください 11 件の回答

- ・開催時期確定はもう少し余裕があると大変助かります。
- ・不便というか、お昼休憩の時間に時々お客さんがドアを開けて入ってきたので、ドアに休憩中とか貼紙があってもよかったのかもしれない
- ・特にありませんでした。
- ・今回は初回で全体的に告知や連絡が遅めだったので遠方からの参加者やこのイベントに合わせて創作物を用意する方には少し不便なところがあったかも。イベント初回なので、そこは仕方ないと思います。
- ・参加サークル一覧をもう少し早く出していただけると、自身のSNSで宣伝をもっとしやすくなるかなと感じました。
- ・車での搬入をお願いしていましたが一日目、16時30分まで開催して16時45分ごろに車を出してほしいと警備の方から聞きましたので、終わって片づけて走りギリギリになりました。本当にちょっとしたことです。
- ・どんなジャンルの本があるかが、参加前はわからないので、イベントの雰囲気を知人に伝えにくかったです。秋葉原ロボット部のブログには、科学館のリンクを張らせていただきました。
- ・出展者に対して少し攻撃的な発言をされる方がいらっしやいました。受付時にマナーを守って楽しくフェスタを楽しめるようにお声がけいただけると幸いです。
- ・ギリギリに設営をしたワンオペサークルだから……というのが原因ではありますが、他のサークルさんのブースにあまり寄れなかったのが心残りです！
- ・コンセントを使わせてもらえたのは有難かったのですが、床からだったので躓いてしまう方もいました。何か注意を促す事が出来たら良かったなと思います。
- ・真ん中の島はお客さんが回遊しやすいように窓際を開けた方が良かったように思います。

#### 9. 実施結果についての考察

サイエンスブックフェスタは、大阪市立科学館では、というか、日本の科学館でもほとんど前例がない、同人誌・同人グッズの有償頒布をふくむイベントであっ

た。ここまで書いたように、初回としてはできすぎなくらい成功裏に終わった。

その要因としては、最初にしたように、そもそも自作の本やグッズなどを頒布するという文化がしっかりとしていることがまずあげられる。単に見せる、説明するのは違い、モノの受け渡しがあり、持ち帰ってもらうというシーンがあるこのような催しは、平素科学館では行っていないことであり、新鮮さも手伝っていたとは考えられる。

また、話すだけではないコミュニケーションもあり、様々な人が何らかの接点を持てたのもよいことであつただろう。これは、そもそも。博物館の特性とあつているともいえる。

また、対面で頒布をするということで、一般のお店であるような交流と対話も多く現れた。無償の頒布やそもそも売れなくてもかまわないという部分もあり、どんな層も安心して参加できる面はあつたと考えられる。

また、出展者からは、非常にちょうど良い環境という声が多数聞かれた。今回出展のレギュレーションには、大阪市立科学館で扱っているジャンルとその近接分野という限定と、科学技術を楽しむものという限定をつけた。前者は、科学館の展示やプラネタリウムを見てちょうどよいお土産やプラスαの体験になった面もあるであろうし、後者は科学では本来重要な批判的、啓発的な厳しめな内容を抑えた形となり、楽しむことがメインの内容になったのは、イベントを目的とせずたまたま科学館に来館した人たちともマッチした部分もあると思う。親和性が高かつたのである。

さらに、今回の出展では、事務職員もふくめ職員も楽しんだという感想を多く耳にした。出展者のうちプロの方々が製作したグッズのいくつかは、その後、科学館のミュージアムショップで扱うようになっている。

サイエンスブックフェスタはこの第1回の成功を受け、第2回も令和7年度中に実施する予定である。本報告で述べたよい点をできるだけ維持しつつ、指摘された課題の改善を行うこと、そして出展枠をさらに増やすことで、当初の目的である交流と対話がさらになされる、より良いイベントとして成立させたいと考えている。

#### 参考文献

- [1] コミックマーケット年表、  
<https://www.comiket.co.jp/archives/Chronology.html>、2025年5月16日閲覧、コミックマーケット公式サイト
- [2] 東京とびもの学会 2025 年年次大会 WEB、  
<https://event.tobimono.org/2025summary>、  
2025年5月28日閲覧

- [3] 石坂ほか「大阪市立科学館第4次展示改装にかかる基本計画の策定について」、大阪市立科学館研究報告 33、pp77-82